

## 令和3年度 第1回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

○日 時 令和3年7月7日（水）午後6時30分～午後8時15分  
 ○場 所 美喜仁桐生文化会館 スカイホール  
 ○出席者 34名

【委員】 委 員：桐生商工会議所 会頭  
 桐生商店連盟協同組合 副理事長  
 桐生市農業委員会 会長  
 桐生広域森林組合 総務部長  
 桐生刺繍商工業協同組合 会計理事  
 群馬県桐生みどり振興局 局長  
 群馬大学 副学長・大学院理工学府 教授  
 桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事  
 桐生信用金庫 常務理事  
 足利銀行 桐生支店長  
 群馬銀行 桐生支店長兼桐生南支店長  
 桐生公共職業安定所 所長  
 (株)桐生タイムス社 取締役事業推進室長  
 桐生市区長連絡協議会 第3区長  
 桐生市社会福祉協議会 常務理事  
 (一社)きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長  
 NPO法人キッズバレイ 代表理事  
 桐生市PTA連絡協議会 会長  
 桐生市医師会 理事  
 桐生青年会議所 副理事長  
 桐生市婦人団体連絡協議会 体育振興部担当  
 桐生市総合計画審議会 副会長職経験者  
 2015年からの生活交通をつくる会 会長

籾山 和久  
 茂木 理亨  
 今泉 芳雄  
 栗原 和人  
 松平 朋憲  
 関口 博久  
 板橋 英之  
 関口 恵美  
 松島 修  
 矢島 雅照  
 石坂 光紀  
 久保田 政夫  
 小澤 義明  
 茂木 新司  
 八町 敏明  
 近藤 圭子  
 星野 麻実  
 池末 晋介  
 金子 浩章  
 深澤 佑太  
 間中 一枝  
 新居 理恵  
 佐羽 宏之

【桐生市】 市 長  
 副市長  
 <事務局> 桐生市共創企画部長  
 桐生市共創企画部企画課長  
 桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長  
 桐生市共創企画部企画課企画戦略担当  
 桐生市共創企画部企画課企画戦略担当  
 桐生市共創企画部企画課企画戦略担当  
 桐生市共創企画部企画課企画戦略担当  
 桐生市共創企画部企画課大学連携推進担当係長

荒木 恵司  
 森山 享大  
 新井 利幸  
 西條 敦史  
 金子 貴征  
 藤野 千絵  
 日浦 弘志  
 村田 健太  
 伊藤 美和子  
 島田 良明

【報道関係】 桐生タイムス 小針記者

○会議内容

1 開 会 [ 開始：午後6時30分 ]

- ・今年2月にご逝去された宝田委員長に対し、全員で黙祷。
- ・事務局から、全員の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 挨拶

- ・荒木市長から挨拶。

3 委員長及び副委員長の選出

- ・委員の互選により、委員長に板橋委員を選出。副委員長は委員長の指名により、新居委員が選出。

4 議 題

(1) 令和3年度総合戦略事業の概要について

- ・資料1から6に基づき、事務局から説明。
- ・4つの基本目標ごとに次のとおり意見交換を実施。

| 基本目標1 |                                                                                                                                       |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員    | 桐生武井西工業団地について、残り1区画ということだが、人口を増やしたり仕事を増やしたりするという意味でも、工業団地計画は今後進めていくのか。                                                                |
| 荒木市長  | 次期工業団地の建設についてであるが、現在、市場調査を行っており、桐生武井西工業団地が完売した後の新たな工業団地についてのニーズを把握しているところであり、ニーズがあると判断された場合には、県の企業局と連携して新たな工業団地の造成について進めてまいりたい。       |
| 委員長   | 資料2の2ページ、KPIに設定されている「創業支援等事業計画に基づく創業者数」について、基準値である2018年度の実績値が27人であるのに対して、目標値が毎年40人であるのは、何か設定根拠があるのか。<br>また、2020年度の実績値が出ていれば教えていただきたい。 |
| 事務局   | 国に提出している「桐生市創業支援等事業計画」において、目標値を40人としており、その数値をKPIにも設定しているところである。                                                                       |
| 委員長   | これは新規創業者数ということであるか。                                                                                                                   |
| 事務局   | そのとおりである。                                                                                                                             |
| 事務局   | 2020年度の実績値については、現在、庁内でとりまとめているところであり、9月開催予定の第2回委員会においてお示しさせていただく予定である。                                                                |

| 基本目標 2 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員     | 今年度から広報監として中澤氏が就任したとのことであるが、一般の団体等が中澤氏から話を聞く機会を設けることは可能であるか。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事務局    | 広報監の活動に関しては、中澤氏の住まいが都心であり、新型コロナウイルス感染症の影響があることから、警戒度を勘案しながら順次進めてまいりたいと考えているところである。まずは、7月に職員を対象としたセミナーを開催する予定であり、市民を対象にした講演会等についても検討してまいりたい。                                                                                                                                                                                           |
| 委員長    | 市民も参加できる広報監のセミナーを開いて意見交換できると良いと思うので、是非お願いしたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 委員     | 重伝建地区がこれから桐生市の目玉になると思うが、重伝建地区に認定されたのが2012年であり、そろそろ10年経つという中で、市民からすると、いつ整備が終わるのか、どのような姿になるのか、目に見える形で進んでいないのではないかと思う。進捗状況をお聞かせいただきたい。                                                                                                                                                                                                   |
| 荒木市長   | <p>今後重伝建地区を桐生の顔としてまちづくりを進めていきたいと考えている。具体的なスケジュールとして、まずは群馬県の県土整備プランという計画の中で、令和5年度中に電線の地中化及び歩道・車道の石畳化が予定されているので、市としてその計画を後押ししてまいりたいと考えている。また、遊園地・動物園の観光客を重伝建地区に導くための歩道整備を行っているところである。さらには、重伝建地区にある眞尾邸という屋敷を重伝建地区の観光拠点として位置づけ、整備を行う予定である。</p> <p>いずれにしても、電線の地中化及び歩道・車道の石畳化が整備されると調和のとれた街並みになるので、計画を推進しながら、重伝建に多くの人が来るような取組を進めてまいりたい。</p> |
| 委員     | 黒保根町の交流促進センターについて、先日建物を拝見したところ、中はとても広くてリモートワークに最適であると思った。今年度の予算を見ると、外壁の工事等が大部分を占めていると思われるが、今後、ソフト面で、どのように貸し出ししたりどのように運用したりしていくかなどの計画があれば教えていただきたい。                                                                                                                                                                                    |
| 森山副市長  | 今年度は、空調設備やWi-Fi環境の整備を予定している。また、貸出しについては、シェアリングエコノミーに則り、広く募集してまいりたい。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 委員     | 桐生商工会議所においても、シティブランディングは大切だと考えており、市の取組が分かりづらい中で、桐生のまちそのもののブランド化を目指しているところである。先ほど重伝建地区の整備の話があったが、建物自体が古く維持することが大変だという話を聞く。重伝建地区を生かすには、桐生のまちそのものをブランド化するとともに、観光の振興ということで、重伝建地区を保存ではなく活用する必要がある。                                                                                                                                         |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>また、遊園地・動物園から観光客を重伝建地区に導くための歩道整備は素晴らしいが、遊園地・動物園と重伝建地区では客層が少し違うのではないかと思いますので、そこら辺の対策も考えるべきである。</p> <p>KPI を見ると、観光入込客数もあまり増えてはいないようなので、大胆な施策を行う必要があるのではないかと感じている。</p>                                                                                         |
| 委員長   | <p>委員のおっしゃるとおり、人が来ないと駄目である。先日俳優の吉沢亮氏が映画のロケで群馬大学理工学部に来た。また、赤城山では、「頭文字D」という人気作品とコラボし大変にぎわっている。そういったもので取り上げられると、とても人気が出る。現在、わたらせフィルムコミッションが沢山ロケ誘致をやっているが、もっと大々的に、重伝建地区にロケを誘致すれば、そこに人が来るようになる。そういった大胆な発想の施策を行う必要がある。</p>                                          |
| 荒木市長  | <p>広報監は、テレビ、映画、CMなどのネットワークを持っているので、その人脈を活用して桐生を広くPRしてまいりたい。</p> <p>また、重伝建地区は日本遺産の6つある構成文化財のうちの1つであり、日本遺産は、保存を目的とする世界遺産と違い、保存ではなく活用することによってまちづくりを行うという大きな目的があるので、活用できるような取組を考えながら進めてまいりたい。</p>                                                                 |
| 委員    | <p>前回の委員会でも申し上げたが、動物園・遊園地の有料化に関するアンケートについて、賛成と反対が拮抗していたので、再度アンケートを行うというような話であったと思うが、その後の進捗についてお聞きしたい。</p> <p>また、個人的な意見であるが、市内の子育て世帯にアンケートを行えば無料が良いと返ってくるのは当然であるので、有料にしたとしても、市内の子育て世帯には無料の入場券を配れば良いと考えている。一方で、市外の人是有料にするなど、有料か無料かどうかではなくて良いと思うが、どう考えているのか。</p> |
| 荒木市長  | <p>動物園・遊園地の有料化については、日頃から議論をしているところであるが、まずは、収入を得るための方策として、ネーミングライツを実施し、それぞれ年間約300万円で契約をいただいている。また、動物園の南北に募金箱を設置し、1日多い時で約8万円入っていたこともある。さらに、企業版ふるさと納税を活用し、動物園・遊園地の費用捻出に取り組んでいる。それらの結果を検証した上で、有料化については検討してまいりたい。</p>                                              |
| 基本目標3 |                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 委員    | <p>現在、第3子への無料化は色々行われているが、実際、3人目を産むのはハードルが高く、数値目標である合計特殊出生率の数値を見ても、2人目に対する施策を考えても良いのではないかと思います。いかがか。</p>                                                                                                                                                       |
| 事務局   | <p>委員のおっしゃるとおり、第3子の前に第2子ということは前から言われており、そのような中、国では保育料の無償化等を実施しているところである。第2子</p>                                                                                                                                                                               |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>は、対象がかなり多く、この第2子に第3子と同じような補助制度を実施するとなると、莫大な財源が必要となる。まずは、国が進める無償化の進展を注視しながら、今後検討を進めてまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 委員    | <p>小・中学校で新たにタブレット PC が導入されるとのことであるが、桐生商業高校も市立の学校であるので、高校まで含めて環境整備をしていただきたい。現在、タブレット PC の導入をしていただいているが、生徒数からパソコン室にあるデスクトップ PC200 台を差し引いた分だけが支給されているので、1人1台タブレット PC を渡せていない状況である。</p> <p>他の県立高校では、昨年度から1人1台のタブレット PC が導入され、進んでいる学校では、家庭でも使えるようになっていっているので、環境にかなり差が出てきているという状況である。</p> <p>特に、商業高校は、商業や情報処理を学ぶので、生徒の手元にタブレット PC があって学べる環境の整備を、私個人だけでなく、学校として是非お願いしたい。予算等の問題もあると思うが、検討していただけたら有り難い。</p> <p>桐生商業高校に市外から通ってくる生徒に桐生市の良さを知ってもらうことで、将来桐生市に住んだり働いたりすることに繋がり、桐生市に若者が入ってくるチャンスになると思うので、是非検討をお願いしたい。</p> |
| 森山副市長 | <p>桐生商業高校にタブレット PC が1人1台導入されていないのは存じ上げているが、当時、教育委員会と桐生商業高校で調整した上でのタブレット PC の配置である。教育委員会には委員のご意見を伝え、対応してまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事務局   | <p>桐生商業高校に通う生徒が将来的に桐生市の企業で働いていただけたら大変有り難いので、市内企業とのマッチングなどの情報提供等について連携してまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 荒木市長  | <p>今年度の新たな取組として、群馬大学の学生と桐生商業高校のビジネス研究部がコラボして、カイバテラス等で新しい食品開発などの連携・交流を進めているところであるので、そういった取組を生かしてまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 委員    | <p>桐生市では、子育て支援や教育の充実に関して様々な取組がされていると思うが、その前の段階である結婚について、男女ともに未婚が多く、子育てのステージまで進めない。少しずつでも出会いの場を設けて、1組でも夫婦が増え、子どもが増えれば様々なことが充実し、将来の見通しが良くなるのではないかと思うので、検討していただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 事務局   | <p>基本目標3の数値目標に合計特殊出生率が設定されている。夫婦が持つ子どもの数は、昔に比べると下がってはいるものの、一定程度の人数を保っている中で、合計特殊出生率が下がっている理由の1つは、未婚の人が増えていることなので、委員のおっしゃるとおり、結婚支援が合計出生率を改善するための大きな課題になる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、婚活イベント等がなかなか実施できない状況にあるが、アフターコロナの際にどのようなことができるかしつかりと検討してまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 委員  | <p>桐生商工会議所でも婚活イベントをやっており、他の両毛5市の商工会議所でもそれぞれ婚活イベントを行っているが、カップルはできてなかなか結婚まで進まないで、結婚相談所のような仲介役がいないと結婚までは難しいのかなと感じている。</p> <p>また、結婚しないと子どもが生まれないというのは確かに問題であるが、フランスのように婚外子への支援を手厚くし、空き家を活用して住まいを提供したり、女性の雇用を推進したりして、結婚していなくても安心して子どもが生まれるというようにできたら、子どもがどんどん生まれて、子どもの数も増え、人口減少を克服する1つの方法なのではないかと考える。今でも市は十分支援していると思うが、それに特色を持たせて、桐生市は子どもを安心して育てられる良いまちということを全国にPRすると良いのではないかと考えるが、いかがか。</p> |
| 事務局 | <p>桐生市は、夫婦、一人親、いずれにしても子どもが生まれた後の支援については、子育て世代包括支援センターを中心とした支援、乳児の健診、産後うつ対策、虐待対応など、東毛地区の中でも充実した支援体制である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 委員  | <p>支援は充実していると思うが、他から見た時に差別化ができているかどうかということである。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 委員長 | <p>特色があるということは、他と違うということであり、その違いが明確に他に知れているかということである。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事務局 | <p>前述のとおり、桐生市は、保育園、放課後児童クラブ含めて非常に子育て環境が充実している。しかしながら、そのことが市内外の方に適切な情報として伝わっているかという点、その部分が弱いと認識しているので、広報監に助言をいただきながらより一層情報発信に努め、桐生市の子育て環境の素晴らしさを伝え、桐生に住んで子育てしていただくような方向に進めてまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                    |
| 委員長 | <p>委員のおっしゃるとおり、他と違うところが外に明確に分かると良いということで、既に支援は実施していると思うので、それが外に分かるように発信していただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 委員  | <p>みどり市は小・中学校の給食費が無料なのに桐生市は無料ではないという声をよく聞く。だからといって桐生市は何もしていないわけではなくて、先ほどおっしゃったように様々な支援をしていると思うのだが、給食費の無料化というのは形として分かりやすいのだと思う。そこで、他の補助を多少減らしてでも、給食費を無料にするというのは、市長の考えとしてはいかがか。</p>                                                                                                                                                                                                       |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 荒木市長   | みどり市が給食費を無料化しているのは存じ上げているが、桐生市では、教育委員会も含めてその議論をしていないのが現状である。そのような意見が多くあった際に、教育委員会と検討してまいりたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 委員     | 給食というのは、食育ということで、教育の一環でもあり、なおさら積極的に進める必要があると思うので、よろしく願いいたしたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委員     | <p>県立高校の先生をやっている友人から、コロナの感染防止対策のため、タブレット PC で生徒総会を行おうと試みたら、Wi-Fi の環境が完璧ではなく、繋がらなかったという話を聞いた。今は導入した段階なので全員一斉に使用する機会はないと思うが、今後タブレット PC がメインになってきた時に、繋がらないと授業が滞ってしまう。やってみなければ分からないことではあると思うが、そういった問題が発生した時に、迅速に改善して環境整備をしていただけたら有り難い。</p> <p>また、青少年保護活動の充実について、中学校を卒業して高校に進学した子どもはつながりを持てるが、高校に進学していない、あるいは中退した子どもで就職もしていない子どもへの見守りなどの支援が少し薄いのではと感じている。青少年課で行っているネット見守り活動なども大事な取組であり、見えにくい部分ではあるが、引きこもりなどの窓口をもう少し分かりやすくし、手厚く支援していただけると、生まれてから成人までの支援体制が本当に整うのではないかなと思うので、お願いいたしたい。</p> |
| 事務局    | <p>1 点目については、タブレット PC の導入に係る Wi-Fi 環境の整備については、担当課につなぎ、対応をお願いいたしたい。</p> <p>2 点目についてであるが、委員のおっしゃるとおり、学校に通っていない方は、非常にコンタクトがとりづらく、また、民生委員等どこを介するべきか、非常に悩ましい問題である。そのような中、青少年課が子どもすこやか部に統合されたので、情報を共有し、連携しながら対応を進めてまいりたい。また、ホットラインができ、子どもの相談窓口は一本化しているので、その中で色々な方法を探してまいりたい。</p>                                                                                                                                                                                                          |
| 委員長    | 1 点目について、近々記者会見で発表する予定だが、群馬大学の ICT データサイエンスコンソーシアムでシステムを作った。このシステムは、容量が 10 分の 1 でネットが繋がりがやすく、e ラーニングシステムも簡単に作れるので桐生市独自の e ラーニング教材が作れる。そうすると他の自治体との差別化が図れるので、是非いち早く導入し、PR していただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 基本目標 4 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 委員     | 避難所の運営について、地区によっては非常に困難な状況である。例えば、3 区は約 1,200 世帯、避難所は 6 箇所あり、1 箇所につき人員が 30~50 人必要な予定になっている。地区は高齢化しており、そのような人達が危険な状況の中で避難所を開設することは難しい。市の方で指導、協力、援助を強力にしてもらわないと、地区だけではなかなか積極的にできないが、いかがか。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局  | 最近では全国各地で大雨等の被害が発生しており、避難所運営は、桐生市においても大変重要な施策であり、地区ごとに状況が違いうということも認識している。3区については、人員等含めて色々と難しい状況にあることも把握している。そのことについては、防災・危機管理課において協議の場を設けさせていただき、地区の状況に合った形で避難所運営を進めてまいりたいと考えている。                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 委員   | もう1点、市役所新庁舎の基本設計がある程度終わったという話を聞いた。熱海市の土砂災害で盛土との因果関係が問題になっているが、その点についての安全性はいかがであるか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 荒木市長 | 熱海市の盛土は、実際は残土であり、これから詳細な調査が行われると思うが、市役所の新庁舎は、平地での約3.2メートルの盛土ということで、安全性を検証しながら進めているところである。8月に入ったら市民向け説明会を行いたいと考えているので、その際に具体的にお示しいたしたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 委員   | <p>ゆっくりズムのまちは何かという説明で、スローモビリティ・スローライフという話が出てくるが、実はそうではなく、お金とモノとエネルギーがあふれていないと幸せを感じられないという価値観からの転換であると理解している。</p> <p>価値観が変わるというのは、大切なのは、市がそのようにするのではなく、市民の行動が変わることであるので、ゆっくりズムのまちは、桐生市の環境先進都市将来構想の会議で取り上げられているが、実はもっと上位のところで考えられなければいけない仕掛けであると考えている。</p> <p>市民の行動を変えろというのは、例えば、市民が桐生のまちを良くしたいと言っているながら市外のショッピングモールに頻繁に買い物へ出かけるのではなく、どこにお金を使うか、どのようにお金を使うかという市民の行動、価値観が変わらないと、お金、モノ、エネルギーを沢山持っている都市には敵わない。桐生でないと実現できないのがゆっくりズムのまちなので、もっと上位のところでゆっくりズムを取り上げていただきたいと思う。</p> |
| 荒木市長 | 委員のおっしゃるとおりである。そのようにさせていただく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 委員長  | JSTの協創の場支援プログラムに群馬大学と桐生市共同で応募したが、その中では、桐生市を幸福感が得られるまちにすることとしている。幸福感とは、佐羽委員のおっしゃるとおり、エネルギーやモノを大量に消費することではなく、人とのつながりが豊かなところが幸福感が得られるまちだと思うので、桐生市をそのようなまちにしていきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

(2) 桐生市総合戦略推進委員会の今後の進め方について

- ・資料7に基づき、事務局から説明。
- ・意見等はなし。

(3) その他

＜意見交換＞

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員   | 桐生市総合戦略推進委員会で最も大事なものは、人口が確実に減少していく中で、どのようなまちになるのかを示すことが大切である。例えば、コンパクトシティ計画があるが、30年後に理想のコンパクトシティを実現させるためには、市民が家をどこに建てるかという時に、そのビジョンを市民に示して理解してもらい、まちなかに誘導することが大切だと思う。そのように、将来の姿が分かるビジョンを見せていただきたい。                                                               |
| 荒木市長 | 行政として考えているたたき台としての形であればご提案はできる。しかし、本委員会では、委員の皆様から提案していただいて具体的な施策に結びつける会議であってほしいので、皆様の意見をいただきながら進めていくとより効果的なものになると思う。                                                                                                                                             |
| 委員長  | <p>市長のおっしゃるとおり、委員の皆様の見意見をいただきながらビジョンを描くことは大事だと思っている。桐生・みどり未来創生会議でも未来ビジョンを描いているので、引き続き連携しながら本委員会を進め、具体的なビジョンが見えてくるとそこへ向けて我々もやる気が出てくるので、上手くビジョンを描いていきたいと思う。</p> <p>また、先ほどの佐羽委員の見意見は非常に良いと思う。他のまちとは違うビジョンを描き、桐生に住んでいることで幸福感を得られるようなまちにしたいと思うので、是非皆様の見意見をいただきたい。</p> |

- ・資料8に基づき、事務局から説明。
- ・桐生市総合戦略推進委員会において「(仮称) 桐生市過疎地域持続的発展計画」の進捗管理を行うことについて承認を得る。

- ・資料9に基づき、事務局から説明。
- ・桐生市総合戦略推進委員会の下部組織としてワーキンググループを設置することについて承認を得る。

5 その他

- ・事務局から、次回の開催日程について事務連絡。

6 閉 会 [ 終了：午後8時15分 ]